

# 高安詰所だより

第14号

立教186年

2月20日



三年千日、先陣を切る 詰所婦人！

「鬼は内、福は外」

いよいよ教祖百四十年祭に向けての年祭活動がスタートしました。よふぼく一人ひとりが「教祖ひながた」を心に置いて「たすけ一条」に邁進する三年千日の始まりです。

うっかり過ごしても三年。ひながた通りしつかり通つても三年。同じ三年ですが、何もしなければ、三年経つても何も変わりません。けれどたとえ僅かでも前に進めば、進んだ分だけは心が成人し、回りの景色も変わります。

「ひながた」を辿ることが、進んで苦勞を求めるといふことなら、「幸せ」を人にあげて「苦勞」を甘んじて受ける生き方、つまり「鬼は外、福は内」ではなく「鬼は内、福は外」という生き方こそ、私達が通らせて頂くひながたの道ではないでしょうか。よふぼくお互いは、樂を求め、苦勞から逃がれようとは思わず、樂を避け、苦勞を追いかける三年千日を通して頂きましょう。

## 詰所行事予定（三月）

- 八日 にをいがけ実動  
十三日 おつとめ勉強会  
十五日 勤務者修練Ⅰ  
十七日 直轄祭参拝（大教会）  
二十日 勤務者修練Ⅱ  
二十三日 大教会月次祭参拝  
二十四日 大教会春季霊祭参拝・教祖百四十年祭決起の集い  
二十六日 本部月次祭参拝者受入れ

## 詰所の動き

詰所婦人部 路傍講演 神名流し



三年千日を待ちかねていたかのように、真つ先に動き始めたのは詰所のご婦人方でした。普段はあまり表に出ることなく、裏方で御用をつとめています。いざというところではやってくれます。誰に言われた訳ではなく、この旬に「道の台」として自分達も、

何かできることから始めさせて頂く

うと、一月二十八日「婦人会創立の

目」に合わせて、詰所から天理駅ま

での神名流し、そして駅頭での路傍

講演を果敢に行いました。天理駅な

んてお道の人ばかりではと勘違いさ

れている方も多いようですが、実際

は一般の方の利用が多く、この日も

足を止める人もなく、冷ややかな視

線の中、また粉雪舞う中、真剣に神様のお話を取り次がせ

て頂き、ゴミ拾い、チラシ配りをさせて頂いて、三年千日

年祭活動のスタートを切りました。

## ブース設置

詰所では、お帰り下さった信者さん方に少しでも快適にお  
過ごし頂きたいと、日々心を配らせて頂いておりますが、



憩いの場である一階のロビーではより多くの方にご利用頂けるよう、空間の有効活用を考え、この度、一人でもゆったりと寛いで頂ける個人用ブースを設けました。昨年



開設しました「フリーWiFi」で、パソコンや携帯電話を通して無料でインターネット接続し御利用頂いていますが、この度新設したブースでは回りを気にすることなく、お一人でもゆったりと楽しんで頂けるよう配慮し、コンセントも個別に装備しております。どうぞ御利用下さい。

### カフェ再開（二月より）& ライブ演奏

コロナで休止されていた「おせち」も今年ようやく再開され、夏の「こどもおぢばがえり」も、規模は幾分縮小されるものの開催されるとい嬉しい知らせが届いています。詰所に於きましても、感染対策には十分配慮しつつも、徐々に以前の状態に戻していく運びですが、その第一弾として、二十六日にお帰りの信者さん方

には大変好評を頂いておりました「詰所カフェ」を、婦人会、青年会ら四会のご協力を仰いで二月の月次祭から再開すべく、目下準備を進めております。また併せて毎月の「詰所ライブ演奏」も、



お楽しみ頂いていますが、近頃では次々と飛び入りの仲間が増えて、今や詰所ロビーは昔懐かしい「歌声喫茶」状態となっています。寒い時の一杯の温かいコーヒーと心地よい音楽は、身も心も芯から温め癒してくれます。どうぞお参拝帰りには気軽に詰所にお立ち寄り下さい。

### にをいがけ実動（二月八日）

「詰所にをいがけ精鋭部隊」は、年祭活動第一歩となる今月、万感の思いを込めて平端方面に出陣。凍てつく寒さものともせず、勇んで教祖のお供をさせて頂きました。



## 修養科第九七八期の愉快な仲間

高安修養科生は家族以上の家族です。

毎日楽しく「陽気ぐらし」しています！



## おぢばに伏せ込む若者達 (その4)

日東紀分教会会長子弟の赤阪祐哉さんは、地元東京の高校から天理大学に進み、現在、輸送部第二課に所属勤務されています。主な仕事内容は関連施設の管理で、上司と二人、広大なおぢばの駐車場で毎日黙々と草引きをされています。高校時代は野球部で活躍されましたが、教会の鼓笛隊でファイフを通して雅楽に関心を持っていたこと

代は野球部で活躍されましたが、教会の鼓笛隊でファイフを通して雅楽に関心を持っていたこと



から、天理大学では雅楽部に入り、韓国を始めロンドン、メキシコと世界各国で演奏旅行され、若い感性で大いに見聞を広められました。将来は社会福祉士の資格をとって、社会に貢献したいと、頼もしく語ってくれました。

## 編集後記

本部春季大祭前日、十年に一度の大寒波が列島を襲い、大雪で道路や鉄道は大混乱となった。長時間の渋滞で疲労困憊の中、教祖を慕う思い一つで帰って来られた信者さん方をお迎えした時、教祖伝逸話篇「雪の日」の情景が思わず心に浮かび、苦勞して帰ってきた信者らの誠実実を、教祖もさぞお喜び下さり、温かくお迎え下さったことと思つた。

発行 天理教高安大教会信者詰所

発行者 芦田孝廣

印刷 天理市守目堂町二五五番地